

アポイ岳・トイレの取り組み

佐々木 泰（アポイ岳ファンクラブ、様似町商工観光課）

1. はじめに

平成25年度から加入した「アポイ岳ファンクラブ（様似町）」です。昨年のフォーラムでは発表の機会を設けていただき、アポイ岳のトイレ問題を中心に、山の状況やアンケート調査の結果、それに基づいた今後の活動計画などを紹介しました。（第14回 山のトイレを考えるフォーラム・資料集を参照）

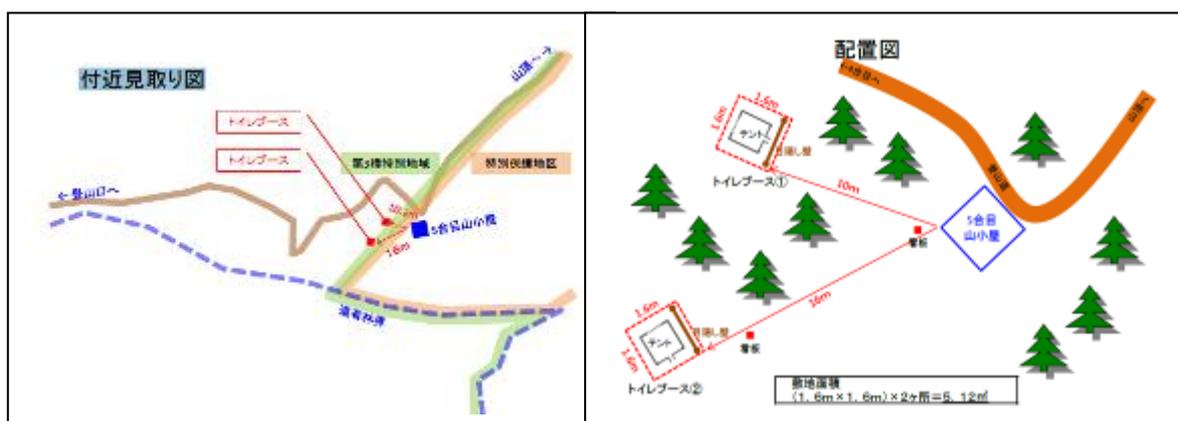
その中で山トイレ先進地の方々や参加者の皆さんから、いろいろなご意見やアドバイスをいただき、後には引けないプレッシャーを感じながら、準備を進めてきました。誰がお金を出して、誰が責任を持って管理するのか…？ややこしい話になるので省略しますが、地元のアポイ岳ファンクラブの意欲的な活動に押されたのか？町行政（私の担当）で予算付けし、アポイ岳ファンクラブが設置・管理をすることになりました。

4月の山開きに向けてと思ったのですが、いろいろな法的規制がかぶっていることもあって、場所の設定や許可申請などのハードルが高く（私の準備不足が悪いのですが）6月18日、山小屋付近・2箇所にて簡易トイレブースを設置しました。（最盛期に間に合わなかったと反省）

2. どこに？どんな簡易トイレを設置したのか？

当クラブでは、山トイレの先進地である「大雪山・黒岳」をはじめ「羅臼岳」「利尻山」を視察し、アポイ岳登山者にアンケート調査を実施した結果から、アポイ岳の場合は低標高で所要時間が往復5～6時間で我慢が可能であること。（調査からは、その内2割ほどが用を足している。）また、特別天然記念物と国定公園の特別保護地区内では簡易ブースの許可が難しい（面倒？）こと。維持管理がしやすいこと。などの理由から、5合目の山小屋付近の第3種特別地域内に2基設置する方向で場所を選定し現地調査を行いました。

下記の図は道に提出した図面の一部で、トイレ用のテントを建てるのにも大変な労力がかかります。（この他にも山全体の位置図や道有林を表示した図面など）



次に、どんなテント？どんな携帯トイレにするのか？ですが、トイレブースについては、現時点ではいつハードブースを建てられるのか不明なため、簡易とはいえ、それなりに丈夫な物として「小川プライベートテントST-Ⅲ」、便器も同じ「小川ポータブルトイレ」を選定（災害時にも利用可能）。



図面に落とすため、きっちり計測（ブース①）

携帯トイレは、無料配布用として「サニタクリーン製・携帯トイレ&超防臭チャック袋」を300セット用意しました。（総額20万円程度）

このほか、販売用としてアポイ岳ファンクラブが独自に作成した携帯トイレセット（中身は同じ）を、登山口の「アポイ岳ジオパークビジターセンター」内で500円／1セットで販売しました。このほか、盗掘防止パトロール隊員（ファンクラブ会員15名）には登山時に数セット携帯させ、登山者に配布するようにしました。さらに簡易トイレブース内にも、緊急用に数セット設置（有料）しそのまま用を足すことのないようにしました。

また、利用者の心理に配慮した目隠し衝立、誘導看板、ブース内には利用マナーなどを設置し、携帯トイレを取り扱うビジターセンターでは使用方法などを掲示して、啓発パンフレット等を配布しました。そして、日ごろの管理や掃除はファンクラブ会員にお願いし、下山後に管理簿に記入してもらうことで利用状況をまとめています。



トイレブースはこんな感じ



使用例を写真で掲示



無料配布用（上）販売用（下）

3. 利用状況と問題点

アポイ岳登山者の最盛期は5月下旬から6月中旬ですが、前述のとおり最盛期を逸した

ことで正確な状況報告とはならないこととお断りします。

昨年のアポイ岳年間登山者数(名簿記載者)は6,215人で、簡易トイレブースの設置期間である6月18日から11月末までの登山者数は3,874人となっています。

昨年のアンケート調査から推測すると、登山者の約20%が用を足したという結果から、今年の設置期間中には775人が用を足したこととなります。

＜ブース利用者数・カウンター調べ＞

(H25.6.18~11.30)

月	登山者数(人)	予想数(20%:人)	回収個数	回収率(%)
6月(18日~)	882	176	10	5.7
7月	1,034	207	14	6.8
8月	725	145	10	6.9
9月	788	158	22	14.0
10月	360	72	5	6.9
11月	85	17	1	5.9
合計	3,874	775	62	8.0



この表の結果から、回収率が8%という予想していたよりだいぶ低い数値ですが、回収した携帯トイレは、持った感じからそのほとんどに大便が入っている(未確認ですが)と思われ、アンケート調査からみると、用を足した人の8%が大便もしたということですので、**62人**ということになり、回収個数と一致します。

また、パトロール隊員の活動期間(～9月まで)に携帯トイレを持って啓発活動を実施した結果、回収率が上がってきているのは気のせいでしょうか。

さらに、ビジターセンターでの携帯トイレの販売個数は61個、啓発用に約100個を無償で配布しました。

これらの結果から、期間が中途半端ではありましたが設置した成果が現れているように思いますし、それなりに慣れた登山者は、携帯トイレへの意識が高く、ブースがあれば利用者が増えるものと思われる。

以下、報告書に記載された問題点と、それに対するコメントです。

・ブース周辺にティッシュ等の散乱あり(6月、9月)

⇒ テントや衝立の陰で用を足したもので、携帯トイレを持っていれば多分防げます。

(ブース内にあったのに!)

・回収ボックスが臭い。(7月)

⇒ すいません。ちょっと長く放置してしまいました。今年は担当を決めて、定期的に回収します。(新しい木製の回収ボックスをビジターセンター付近に設置します。)

・携帯トイレを使わず、そのままブースを使用。(7月、9月)

⇒ 悪い予想が当たりました。啓発活動を続けましょう。

・再生地（5号目下）に使用済み携帯トイレ放置（8月）

⇒ これも悪い予想！ 山小屋まで間に合わなかったか、単に忘れ物か？

等々、当初はどこの山でも心配されていたことが起こりましたが、予想以上に件数は少なかったように思います。これも先進各地域での地道な啓発活動のおかげと、後発のアポイは感謝しています。これからは皆さんと一緒に普及活動に努めていきたいと思っています。



森林の中なので風当たりも弱い



内部の啓発看板



掲示板を兼ねた目隠し衝立

4. 今後の活動について

さて、何とかトイレ元年のシーズンが終わりましたが、その結果を踏まえ、今年は4月13日のアポイ岳山開きオープンに間に合うように、まずは許可申請を提出し、簡易トイレや回収ボックス、看板を設置します。

啓発活動については、幼稚園や学校登山（事前学習）での携帯トイレの無償配布、毎年来ている団体ツアー等エージェントへの周知、ビジターセンターでの掲示、指導、販売などを行っていきます。

また、パトロール隊員には引き続き携帯トイレを持って登山者への普及啓発を行ってもらい、ブースの清掃にも協力してもらおうことにしています。

この他、セット販売価格が500円ですが、普及の妨げになってはいないか？もっと安くする方法はないか？販売するところを増やせるか？…など、皆さんのご意見や情報がありましたらよろしくお願いたします。



最後に宣伝です。

様似町の「アポイ岳ジオパーク」について、少しだけ紹介します。

アポイ岳は言わずと知れた高山植物の山ですが、さて、なぜ、こんな低い山に数多くの高山植物が生育しているのか？それは、特異な土壌・地質があるからです。

そのことを知ることは、もっと深く、楽しく山を登ることにつながり、自然の驚異と不思議さをあらためて知ることになるでしょう。

アポイ岳は、北海道・日高山脈の南西に位置する標高約 810mの山で、この山をシンボルとして仰ぐ様似町全域をエリアとして、2008年に「アポイ岳ジオパーク」として日本ジオパークに認定されました。



アポイ岳ジオパークビジターセンター

アポイ岳は、山全体が地球深部の上部マントルに由来する「かんらん岩」できています。超塩基性岩であるかんらん岩は、アポイ岳とその周辺に貴重な自然環境と豊かな海洋資源をもたらしています。アポイ岳には、ヒダカソウやエゾコウゾリナ、サマニユキワリなどの固有植物

をはじめ、約80種の高山植物が生息し、その群落は国の特別天然記念物に指定されています。低山であるにもかかわらず、高山植物が生息しているのは、足元のかんらん岩が影響しているといわれています。また、アポイ岳周辺は、出汁や昆布巻き、佃煮など、日本料理に欠かせない良質な日高昆布が豊富に採れる地域です。これも、かんらん岩に多く含まれている鉄やマグネシウムが養分となっているのではないかとされています。

アポイ岳ジオパークには、5つの小エリアの中に33のジオサイトがあります。4～5時間の登山で高山植物の花々と太平洋のパノラマを満喫できるアポイ岳をはじめ、かんらん岩の渓谷が美しい幌満峡、親子岩やエンルム岬などの風光明媚な海岸地形とアイヌの口碑伝説、蝦夷地開拓の歴史を語る古道・様似山道など見どころは満載です。また、周辺は日本屈指の馬産地で、サラブレッド達が草をはむ牧歌的景観が広がっていて、多くの競馬ファンが足を運ぶ地域でもあります。



ジオパークの一翼を担うアポイ岳FCの任務は、登山道整備や高山植物の保護・再生